

大阪経済法科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
2022年度(令和4年度)自己点検・評価について

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和4年度は、全1年生、969名が履修し、うち805名が合格(修得)することとなった。以上の結果と経験を踏まえ、令和5年度からはさらにプログラム拡充することで、数理・データサイエンス・AI教育を広く展開する。
学修成果	情報教育運営会議を中心に、プログラムを構成する授業クラス毎の合格率・出席率、秀、優、良、可、不可の割合など、客観的で定量的なデータを用いて学修成果を直接的に把握している。上述のとおり、令和4年度においては、プログラム履修者969名のうち805名が合格し、修得率83%となった。令和5年度においても、継続的な授業改善と丁寧な学修指導を行うことで、高い合格率の維持に努める。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では全科目に対して「授業・学修評価アンケート」を実施している。「この授業を受けて、新しい知識や技能、考え方が身につきましたか」の項目の分析により学生の主観的な理解度を把握している。令和4年度と同プログラム実施クラスの平均は、5点満点中4.4点であり、学生の主観評価においては高い理解度を確保できたと評価できる。また、自由記述欄においても、「Excelでの統計分析について詳しくなれた。」、「社会に出るためのスキルを身につけることができた。」などの意見があった。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では全科目に対して「授業・学修評価アンケート」を実施している。「総合的に、この授業に満足していますか」の項目の分析により推奨度を評価している。令和4年度と同プログラム実施クラスの平均は、5点満点中4.3点であり、学生の主観評価においては他の学生に推奨できる水準に到達していると考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	上述のとおり、令和4年度は、全学部の1年生全員が履修する「データサイエンス基礎」の全クラスでプログラムを実施した。令和5年度からは、「データサイエンス基礎」を必修科目とするとともに、プログラム構成科目を拡充することで、同プログラムの充実を図る計画である。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和3年度の秋学期から1年生を対象に実施したため、修了者は令和5年度時点で3年生であり、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価についてはまだ存在しない。今後、卒業生が出た段階で、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価等については可能な範囲で把握できるように努めたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	教育プログラムを運営、点検、評価、改善する主体である情報教育運営会議の構成員には、企業出身の実務家教員も参加しており、産業界の視点を含めた教育プログラムの内容・手法等に関する意見交換や改善の取り組みを行っている。また、全学的な産業界との意見交換の機会があれば、同プログラムに対する意見を伺うことを検討する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	プログラムを構成する授業では、最新の内容や身近な事例も扱いつつ、座学だけでなく実際にソフトウェア(Excel等)を操作しデータ処理・分析を実施することで「学ぶ楽しさ」を喚起するような授業を展開している。また、背景となる、Society5.0に向けたAI戦略2019や、IT人材不足の現状(経済産業省のレポート)も説明することで、「意義」を理解させるように努めている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	全1年生が同プログラム科目を履修することから、全体の合格率・出席率、秀・優・良・可・不可、課題の成績等の定量的なデータ、及び「授業・学修評価アンケート」の分析、学生からの声、科目担当教員の授業改善報告書等の現場教員の声を総合して、情報教育運営会議において、毎学期、授業の総括を行い、学修目標を落とすことなく、分かりやすい授業となるよう努めている。令和4年度は全1年生に対して同プログラムを実施したが、合格率は83%を超えることができた。令和5年度においても引き続き内容・水準を維持・向上させつつ、より「分かりやすい授業」とするため、授業内容と教科書の再検証、動画教材等(事前事後学修で利用可能)をさらに充実させる等の授業改善の取り組みを進める。